

手取川第二発電所の運転再開について

平成28年1月25日
北陸電力株式会社

運転を停止していた当社の手取川第二発電所(最大出力:8万7千kW)は、補修が完了し、昨日(1月24日)22時00分に運転を再開いたしました。

同発電所は、運転中に発電機の故障を検知したことから、12月23日午前9時53分に自動停止しました。(平成27年12月25日お知らせ済み)

調査の結果、発電機固定子内で、巻線(コイル)^{※1}の絶縁材の一部が損傷し地絡^{※2}したものと判明しました。損傷箇所については補修を行った上で、固定子全体の点検を実施し、試運転において問題ないことを確認したことから、1月24日22時00分に運転を再開いたしました。

当社は、今後も発電所のより一層の安全運転に努めてまいります。

以上

【別紙】手取川第二発電所 発電機故障状況概要

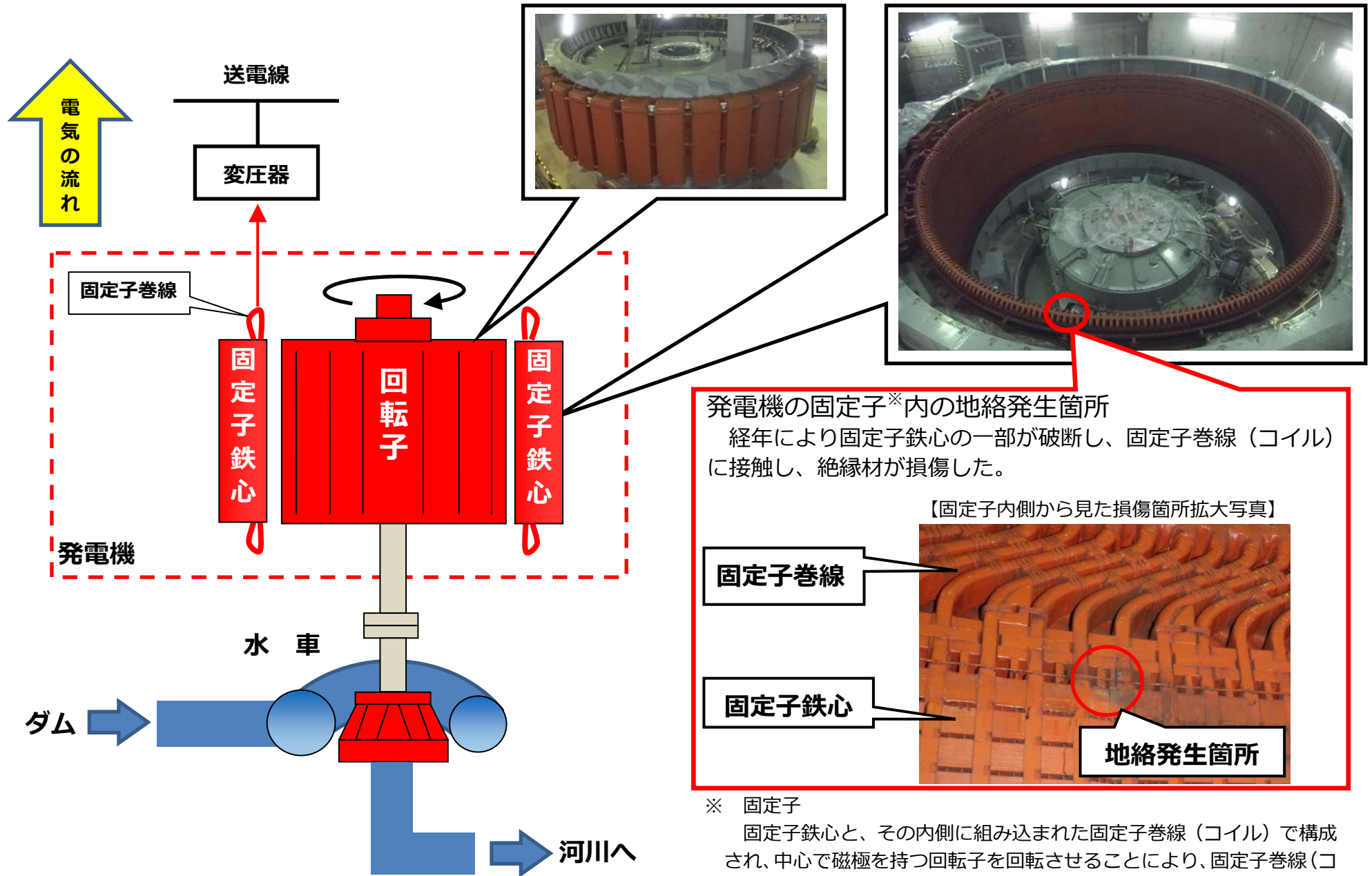
※1 巻線(コイル)

絶縁された電線(銅線)を巻いたもので、発電による電流が流れる主回路

※2 地絡

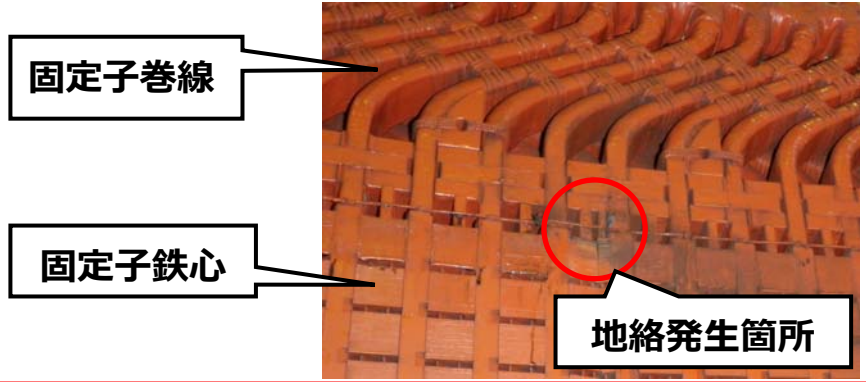
電気回路の絶縁低下、異物の接触などで電気回路が大地と電氣的に接続されること

【手取川第二発電所 発電機故障状況概要】



発電機の固定子[※]内の地絡発生箇所
経年により固定子鉄心の一部が破断し、固定子巻線（コイル）に接触し、絶縁材が損傷した。

【固定子内側から見た損傷箇所拡大写真】



※ 固定子
固定子鉄心と、その内側に組み込まれた固定子巻線（コイル）で構成され、中心で磁極を持つ回転子を回転させることにより、固定子巻線（コイル）に電力が発生する。